校異源氏物語・とこなつ

いとあつき日ひむかしのつり殿にいて給ひてすゝみ給ふ中将の君もさふらひ給ふしたしき殿上人あまたさふらひてにしかはよりたてまつれるあゆちかきかはのいしふしやうのものおまゑにてゝうしてまいらすれいの大殿のきむたち中将の御あたりたつねてまいり給へりさう　くしくねふたかりつるおりよくものし給へるかなとておほみきまいりひみつめしてすひはむなととり　くにさうときつゝくふかせはいとよくふけとも日のとかにくもりなき空のにしひになるほとせみのこゑなともいとくるしけにきこゆれはみつのうへむとくなるけふのあつかはしさかなむらいのつみはゆるされなむやとてよりふし給へりいとかゝるころはあそひなともすさましくさすかにくらしかたきこそくるしけれ宮つかへするわかき人　くたへかたからむなをひもとかぬほとよこゝにてたにうちみたれこのころよにあらむことのすこしめつらしくねふたさゝめぬへからむかたりてきかせ給へなにとなくおきなひたる心ちしてせけむのこともおほつかなしやなとの給へとめつらしきことゝてうちいてきこえむものかたりもおほえねはかしこまりたるやうにてみないとすゝしきかうらむにせなかをしつゝさふらひ給ふいかてきゝしことそやおとゝのほかはらのむすめたつねいてゝかしつき給ふなるとまねふ人ありしかはまことにやと弁少将にとい給へはこと　くしくさまていひなすへきことにも侍らさりけるをこの春のころをひゆめかたりしたまひけるをほのきゝつたへ侍ける女のわれなむかこつへきことあるとなのりいて侍けるを中将のあそむなむきゝつけてまことにさやうにふれはいぬへきしるしやあるとたつねとふらひ侍けるくはしきさまはえしり侍らすけにこのころめつらしきよかたりになむ人　くもし侍なるかやうのことにそ人のためをのつからけそむなるわさに侍けれときこゆまことなりけりとおほしていとおほかめるつらにはなれたらむをくるゝかりをしゐてたつね給ふかふくつけきそいとゝもしきにさやうならむものゝくさはひみてまほしけれとなのりもゝのうきゝはとや思ふらんさらにこそきこえねさてもゝてはなれたることにはあらしらうかはしくとかくまきれ給ふめりしほとにそこきよくすまぬ水にやとる月はくもりなきやうのいかてかあらむとほゝゑみての給ふ中将のきみもくはしくきゝ給ふことなれ

はえしもまめたゝす少将と藤侍従とはいとからしとおもひたりあそむやさやう
のおちはをたにひろへ人わろきなのゝちのよにのこらむよりはおなしかさしに
てなくさめむになてうことかあらむとろうし給ふやうなりかやうのことにてそ
うはへはいとよき御なかのむかしよりさすかにひまありけるまいて中将をいた
くはしたなめてわひさせ給ふつらさをおほしあまりてなまねたしとももりきゝ
給へかしとおほすなりけりかくきゝ給につけてもたいのひめ君をみせたらむと
きまたあなつらはしからぬかたにもてなされなむはやいとものきら　くしくか
ひある所つき給へる人にてよしあしきけちめもけさやかにもてはやしまたもて
けちかろむることも人にことなるおとゝなれはいかにものしと思らむおほえぬ
さまにてこの君をさしいてたらむにえかろくはおほさしいときひしくもてなし
てむなとおほすゆふつけゆく風いとすゝしくてかへりうくわかき人　くはおも
いたり心やすくうちやすみすゝまむややう　くかやうのなかにいとはれぬへき
よはひにもなりにけりやとてにしのたいにわたり給へはきむたちみな御をくり
にまいり給ふたそかれときのおほ　くしきにおなしなをしともなれはなにとも
わきまへられぬにおとゝひめ君をすこしといて給へとてしのひて少将侍従なと
ゐてまうてきたりいとかけりこまほしけにおもへるを中将のいとしほうの人に
てゐてこぬむしんなめりかしこの人　くはみな思ふ心なきならしなほ　くしき
きはをたにまとのうちなるほとはほとにしたかひてゆかしくおもふへかめるわ
さなれはこのいへのおほえうち　くのくた　くしきほとよりはいとよにすきて
こと　くしくなむいひ思なすへかめるかた　くものすめれとさすかに人のすき
こといひよらむにつきなしかしかくてものし給ふはいかてさやうならむ人のけ
しきのふかさあさゝをもみむなとさう　くしきまゝにねかひおもひしをほいな
むかなふ心ちしけるなとさゝめきつゝきこへ給ふおまへにみたれかはしきせむ
さいなともうへさせ給はすなてしこのいろをとゝのへたるからのやまとのませ
いとなつかしくゆひなしてさきみたれたるゆふはえいみしくみゆみなたちより
て心のまゝにもおりとらぬをあかすおもひつゝやすらふいふそくともなりな心
もちゐなともとり　くにつけてこそめやすけれ右の中将はましてすこししつま
りて心はつかしきけまさりたりいかにそやをとつれきこゆやはしたなくもなさ
しはなちたまひそなとの給ふ中将の君はかくよきなかにすくれておかしけにな
まめき給へり中将をいとひ給ふこそおとゝはほいなけれましりものなくきら
　くしかめる中におほきみたつすちにてかたくなゝりとにやとのたまへはきま
さはといふ人も侍けるをときこえ給ふいてそのみさかなもてはやされんさまは

ねかはしからすたゝおさなきとちのむすひをきけん心もとけすとし月へたて給
ふ心むけのつらきなりまたけらうなりよのきゝみゝかろしとおもはれはしらす
かほにてこゝにまかせたまへらむにうしろめたくはありなましやなとうめき給
ふさはかゝる御心のへたてある御なかなりけりときゝ給にもおやにしられたて
まつらむことのいつとなきはあはれにいふせくおほす月もなきころなれはとう
ろにおほとなふらまいれりなをけちかくてあつかはしやかゝり火こそよけれと
て人めしてかゝり火のたいひとつこなたにとめすおかしけなるわこむのあるひ
きよせ給てかきならし給へはりちにいとよくしらへられたりねもいとよくなれ
はすこしひき給ひてかやうの事は御心にいらぬすちにやと月ころ思ひおとしき
こえけるかな秋のよの月かけすゝしきほといとおくふかくはあらてむしのこゑ
にかきならしあはせたるほとけちかくいまめかしきものゝねなりこと　くしき
しらへもてなししとけなしやこのものよさなからおほくのあそひもののねはう
しをとゝのへとりたるなむいとかしこきやまとことゝはかなくみせてきはもな
くしをきたることなりひろくことくにのことをしらぬ女のためとなむおほゆる
おなしくは心とゝめてものなとにかきあはせてならひ給へふかき心とてなには
かりもあらすなからまたまことにひきうることはかたきにやあらんたゝいまは
このうちのおとゝになすらふ人なしかしたゝはかなきおなしすかゝきのねによ
ろつのものゝねこもりかよひていふかたもなくこそひゝきのほれとかたりたま
へはほの　く心えていかてとおほすことなれはいとゝいふかしくてこのわたり
にてさりぬへき御あそひのおりなときゝ侍なんやあやしき山かつなとの中にも
まねふものあまた侍なることなれはをしなへて心やすくやとこそ思ひたまへつ
れさはすくれたるはさまことにや侍らむとゆかしけにせちに心にいれて思ひ給
へれはさかしあつまとそなもたちくたりたるやうなれと御せむの御あそひにも
まつふむのつかさをめすは人のくにはしらすこゝにはこれをものゝおやとした
るにこそあめれそのなかにもおやとしつへき御てよりひきとり給へらむは心こ
となりなむかしこゝになともさるへからむおりにはものし給ひなむをこのこと
にておしますなとあきらかにかきならし給はむことやかたからむものゝ上すは
いつれのみちも心やすからすのみそあめるさりともつゐにはきゝ給てむかしと
てしらへすこしひきたまふことつひいとになくいまめかしくおかしこれにもま
されるねやいつらむとおやの御ゆかしさたちそひてこの事にてさへいかならむ
世にさてうちとけひき給はむをきかむなと思ひゐたまへりぬきかはのせゝのや
はらたといとなつかしくうたひたまふおやさくるつまはすこしうちわらひつゝ

わさともなくかきなし給ひたるすかゝきのほといひしらすおもしろくきこゆいてひき給へさえは人になむはちぬさうふれむはかりこそ心のうちにおもひてまきらはす人もありけめおもなくてかれこれにあはせつるなむよきとせちにきこえ給へとさるゐなかのくまにてほのかに京ひとゝなのりけるふるおほきみ女をしへきこえけれはひかことにもやとつゝましくてゝふれ給はすしはしもひき給はなむきゝとる事もやと心もとなきにこの御事によりそちかくゐさりよりていかなる風のふきそひてかくはひゝき侍そとよとてうちかたふき給へるさまほかけにいとうつくしけなりわらひ給ひてみゝかたからぬ人のためには身にしむ風もふきそふかしとてをしやり給ふいと心やまし人　くちかくさふらへはれひのたはふれこともえきこえ給はてなてしこをあかてもこの人　くのたちさりぬるかないかておとゝにもこの花そのみせたてまつらむよもいとつねなきをとおもふにいにしへもゝのゝつゐてにかたりいて給へりしもたゝいまのことゝそおほゆるとてすこしのたまひいてたるにもいとあはれなり

なてしこのとこなつかしき色をみはもとのかきねを人やたつねむこの事のわつらはしさにこそまゆこもりも心くるしう思ひきこゆれとの給ふ君うちなきて

山かつのかきほにおひしなてしこのもとのねさしをたれかたつねんはかなけにきこえない給へるさまけにいとなつかしくわかやかなりこさらましかはとうちすし給ひていとゝしき御心はくるしきまてなをえしのひはつましくおほさるわたり給ふ事もあまりうちしきり人のみたてまつりとかむへき程は心のおにゝおほしとゝめてさるへきことをしいてゝ御ふみのかよはぬおりなしたゝこの御ことのみあけくれ御心にはかゝりたりなそかくあいなきわさをしてやすからぬものおもひをすらむさ思はしとて心のまゝにもあらはよの人のそしりいはむ事のかる　くしさわかためをはさるものにてこの人の御ためいとおしかるへしかきりなき心さしといふともはるのうへの御おほえにならふはかりは我心なからえあるましくおほしゝりたりさてそのおとりのつらにてはなにはかりかはあらむわか身ひとつこそ人よりはことなれみむ人のあまたか中にかゝつらはむするゑにてはなにのおほえかはたけからむことなることなき納言のきはのふた心なくて思はむにはおとりぬへきことそとみつからおほしゝるにいと　くおしくて宮大将なとにやゆるしてましさてもてはなれいさなひとりては思ひもたえなんやいふかひなきにてさもしてむとおほすおりもありされとわたり給ひて御かたちをみ給ひいまは御ことをしへたてまつりたまふにさへことつけてちかやかに

なれより給ふひめ君もはしめこそむくつけくうたてとも思ひ給しかかくてもなたらかにうしろめたき御心はあらさりけりとやう　くめなれていとしもうとみきこえ給はすさるへき御いらへもなれ　くしからぬほとにきこえかはしなとしてみるまゝにいとあいきやうつきかほりまさり給へれはなをさてもえすくしやるましくおほしかへすさはまたさてこゝなからかしつきすへてさるへきおり

　くにはかなくうちしのひものをもきこえてなくさみなむやかくまたよなれぬほとのわつらはしさこそ心くるしくはありけれをのつからせきもりつよくともものゝ心しりそめいとおしきおもひなくてわか心も思ひいりなはしけくともさはらしかしとおほしよるいとけしからぬことなりやいよ　く心やすからす思ひわたらむくるしからむなのめにおもひすくさむことのとさまかくさまにもかたきそよつかすむつかしき御かたらいなりけるうちの大殿はこのいまの御むすめのことをとのゝ人もゆるさすかろみいひよにもほきたること、そしりきこゆときゝ給ふに少将のことのついてにおほきおとゝのさることやとふらひ給し事かたりきこゆれはさかしそこにこそはとしころをとにもきこえぬやまかつのこむかへとりてもののめかしたつれおさ　く人のうへもときたまはぬおとゝのこのわたりのことはみゝとゝめてそおとしめたまふやこれそおほえある心ちしけるとの給ふ少将のかのにしのたいにすへ給へる人はいとこともなきけはひみゆるわたりになむ侍なる兵部卿宮なといたう心とゝめての給ひわつらふとかおほろけにはあらしとなむ人　くをしはかりはへめると申給へはいてそれはかのおとゝの御むすめとおもふはかりのおほえのいといみしきそ人のこゝろみなさこそあるよなめれかならすさしもすくれし人　くしきほとならはとしころきこえなましあたらおとゝのちりもつかすこのよにはすき給へる御身のおほえありさまにおもたゝしきはらにむすめかしつきてけにきすなからむとおもひやりめてたきかものしたまはぬはおほかたのこのすくなくて心もとなきなめりかしおとりはらなれとあかしのおもとのうみいてたるはしもさるよになきすくせにてあるやうあらむとおほゆかしそのいまひめ君はようせすはしちの御こにもあらしかしさすかにいとけしきある所つき給へる人にてもてない給ふならむといひをとし給さていかゝさためらるなるみこゝそまつはしえたまはむもとよりとりわきて御なかよし人からもきやうさくなる御あはひともならむかしなとの給ひてはなをひめ君の御ことあかすくちおしかやうに心にくゝもてなしていかにしなさむなとやすからすいふかしからせましものをとねたけれはくらゐさはかりとみさらむかきりはゆるしかたくおほすなりけりおとゝなともねんころにくちいれか

へさひ給はむにこそはまくるやうにてもなひかめとおほすにおとこかたはさらにいられきこえ給はす心やましくなむとかくおほしめくらすまゝにゆくりもなくかるらかにはひわたり給へり少将も御ともにまいり給ふひめ君はひるねし給へるほとなりうすものゝひとへをきたまひてふし給へるさまあつかはしくはみえすいとらうたけにさゝやかなりすき給へるはたつきなといとうつくしけなるてつきしてあふきをも給へりけるなからかひなをまくらにてうちやられたる御くしのほといとなかくこちたくはあらねといとをかしきすゑつきなり人　くものゝうしろによりふしつゝうちやすみたれはふともおとろい給はすあふきをならし給へるになに心もなくみあけ給へるまみらうたけにてつらつきあかめるもおやの御めにはうつくしくのみみゆうたゝねはいさめきこゆるものをなとかいとものはかなきさまにてはおほとのこもりける人　くもちかくさふらはてあやしや女は身をつねに心つかいしてまもりたらむなんよかるへき心やすくうちすてさまにもてなしたるしなゝき事なりさりとていとさかしく身かためてふとうのたらによみていむつくりてゐたらむもにくしうつゝの人にもあまりけとをくものへたてかましきなとけたかきやうとても人にくゝ心うつくしくはあらぬわさなりおほきおとゝのきさきかねのひめ君ならはしたまふなるをしへはよろつのことにかよはしなたらめてかと　くしきゆへもつけしたと　くしくおほめくこともあらしとぬるらかにこそをきて給ふなれけにさもあることなれと人として心にもするわさにもたてゝなひくかたはかたとあるものなれはおひいて給ふさまあらむかしこの君のひとゝなり宮つかへにいたしたて給はむよのけしきこそいとゆかしけれなとのたまひて思やうにみたてまつらむとおもひしすちはかたうなりにたる御身なれといかて人わらはれならすしなしたてまつらむとなむ人のうへのさま　くなるをきくことにおもひみたれ侍心みことにねんころからむ人のねき事になしはしなひき給ひそ思さま侍なといとらうたしとおもひつゝきこえ給ふむかしはなに事もふかくもおもひしらてなか　くさしあたりていとをしかりしことのさはきにもおもなくてみえたてまつりけるよといまそおもひいつるにむねふたかりていみしくはつかしき大宮よりもつねにおほつかなき事をうらみきこえ給へとかくの給ふるかつゝましくてえわたりみたてまつり給はすおとゝこのきたのたいのいま姫君をいかにせむさかしらにむかへゐてきて人かくそしるとてかへしをくらむもいとかるかるしくものくるをしきやうなりかくてこめをきたれはまことにかしつくへき心あるかと人のいひなすなるもねたし女御の御方なとにましらはせてさるおこのものにしないてむ人のいとかたは

なるものにいひおとすなるかたちはたいとさいふはかりにやはあるなとおほして女御の君にかの人まいらせむみくるしからむことなとはおいしらへるねうはうなとしてつゝますいひをしへさせ給ひて御らむせよわかき人　くのことくさにはなわらはせさせ給ふそうたてあはつけきやうなりとわらひつゝきこえ給ふなとかいとさことのほかには侍らむ中将なとのいとになく思ひ侍けんかねことにたらすといふはかりにこそはゝへらめかくの給ひさはくをはしたなう思はるゝにもかたへはかゝやかしきにやといとはつかしけにてきこえさせ給ふこの御ありさまはこまかにおかしけさはなくていとあてにすみたるものゝなつかしきさまそひておもしろきむめの花のひらけさしたるあさほらけおほえてのこりおほかりけにほゝゑみ給へるそ人にことなりけるとみたてまつり給ふ中将のいとさいへと心わかきたとりすくなさになと申給ふもいとをしけなる人のみおほえかなやかてこの御方のたよりにたゝすみおはしてのそき給へはすたれたかくをしはりてこせちの君とてされたるわか人のあるとすくろくをそうち給ふてをいとせちにをしもみてせうさい　くとこふこゑそいとしたときやあなうたてとおほして御ともの人のさきほふをもてかきせいし給ふてなをつまとのほそめなるよりさうしのあきあひたるをみいれ給ふこのいとこもはたけしきはやれる御かへしや　くとゝうをひねりてとみにうちいてすなかにおもひはありやすらむいとあさえたるさまともしたりかたちはひちゝかにあい行つきたるさましてかみうるはしくつみかろけなるをひたいのいとちかやかなるとこゑのあはつけさとにそこなはれたるなめりとりたてゝよしとはなけれとこと人とあらかふへくもあらすかゝみにおもひあはせられたまふにいとすくせ心つきなしかくてものし給ふはつきなくうゑうゑしくなとやあることしけくのみありてとふらひまうてすやとの給へはれいのいとしたとにてかくてさふらふはなにのもの思ひか侍らむとしころおほつかなくゆかしく思ひきこえさせし御かほつねにえみたてまつらぬはかりこそてうたぬ心ちしはへれときこえ給ふけにみにちかくつかふ人もおさ　くなきにさやうにてもみならしたてまつらんとかねてはおもひしかとえさしもあるましきわさなりけりなへてのつかうまつり人こそとあるもかゝるもをのつからたちましらひて人のみゝをもめをもかならすしもとゝめぬものなれは心やすかへかめれそれたにその人のむすめかの人のことしらるゝきはになれはおやはらからのおもてふせなるたくひおほかめりましてとの給ひさしつる御けしきのはつかしきもしらすなにかそはこと　くしくおもひ給ひてましらひはへらはこそところせからめおほみおほつほとりにもつかうまつりなむときこえ

給へはえねんし給はてうちわらひ給ひてにつかはしからぬやくなゝりかくたまさかにあへるおやのけうせむの心あらはこのものゝたまふこゑをすこしのとめてきかせたまへさらはいのちものひなむかしとおこめいたまへるおとゝにてほゝゑみてのまふしたの本上にこそは侍らめおさなく侍し時たにこはゝのつねにくるしかりをしへ侍しめうほうしのへたうたいとこのうふやに侍けるあへものとなんなけき侍たうひしいかてこのしたとさやめはへらむと思ひさはきたるもいとけうやうの心ふかくあはれなりとみ給ふそのけちかくいりたちたりけむたいとこゝそはあちきなかりけれたゝそのつみのむくひなゝりをしこととともりとそたいそうそしりたるつみにもかすへたるかしとの給ひてこなからはつかしくおはする御さまにみえたてまつらむこそはつかしけれいかにさためてかくあやしきけはひもたつねすむかへよせけむとおほし人　くもあまたみつきいひちらさんことゝおもひかへし給ふものから女御さとにものし給ふとき　くわたりまいりて人のありさまなともみならひ給へかしことなることなき人もをのつから人にましらひさるかたになれはさてもありぬかしさる心してみえたてまつりたまひなんやとの給へはいとうれしき事にこそ侍なれたゝいかても　く御方　くにかすまへしろしめされんことをなんねてもさめてもとしころなにことを思たまへつるにもあらす御ゆるしたに侍らはみつをくみいたゝきてもつかうまつりなんといとよけにいますこしさえつれはいふかひなしとおほしていとしかおりたちてたきゝひろい給はすともまいり給ひなんたゝかのあへものにしけんのりのしたにとをくはとおこことにの給ひなすをもしらすおなしき大臣ときこゆる中にもいときよけにもの　くしくはなやかなるさましておほろけの人みえにくき御けしきをもみしらすさていつか女御とのにはまいり侍らんするときこゆれはよろしきひなとやいふへからむよしこと　くしくはなにかはさ思はれはけふにてもとの給ひすてゝわたり給ひぬよき四位五位たちのいつきゝこえてうちみしろき給にもいといかめしき御いきをいなるをみをくりきこえていてあなめてたの我おやゝかゝりけるたねなからあやしきこいへにおひいてけることゝの給ふこせちあまりこと　くしくはつかしけにそおはするよろしきおやの思ひかしつかむにそたつねいてられ給はましといふもわりなしれいの君の人のいふことやふり給ひてめさましいまはひとつくちにことはなませられそあるやうあるへき身にこそあめれとはらたち給かほやうけちかくあひきやうつきてうちそほれたるはさるかたにおかしくつみゆるされたりたゝいとひなひあやしきしも人のなかにおひいて給へれはものいふさまもしらすことなるゆへなきことはをもこ

ゑのとやかにをししつめていひいたしたるはうちきゝみゝことにおほえおかし
からぬうたかたりをするもこゑつかひつきつきしくてのこりおもはせもとするゑ
おしみたるさまにてうちすむしたるはふかきすち思ひえぬほとのうちきゝには
おかしかなりとみゝもとまるかしいと心ふかくよしあることをいひゐたりとも
よろしき心ちあらむときこゆへくもあらすあはつけきこはさまにのたまひいつ
ることはこは　くしくことはたみてわかまゝにほこりならひたるめのとのふと
ころにならひたるさまにもてなしいとあやしきにやつるゝなりけりいといふか
ひなくはあらすみそもしあまりもとすゑあはぬうたくちとくうちつゝけなとし
給ふさて女御とのにまいれとの給つるをしふしふなるさまならはものしくもこ
そおほせよさりまうてむおとゝの君天下におほすともこの御方　くのすけなく
し給はむにはとのゝうちにはたてりなんはやとの給ふ御おほえの程いとかろら
かなりやまつ御ふみたてまつり給あしかきのまちかきほとにはさふらいなから
いまゝてかけふむはかりのしるしも侍らぬはなこそのせきをやすえさせ給へら
むとなんしらねともむさしのといへはかしこけれともあなかしこや　くとてむ
かちにてうらにはまことやくれにもまいりこむと思ふ給へたつはいとふにはゆ
るにやいてや　くあやしきはみなせかはにをとてまたはしにかくそ

　くさわかみひたちのうらのいかゝさきいかてあひみんたこのうらなみおほ
かはみつのとあをきしきしひとかさねにいとさうかちにいかれるてのそのすち
ともみえすたゝよひたるかきさまもしもなかにわりなくゆへはめりくたりのほ
とはしさまにすちかひてたうれぬへくみゆるをうちゑみつゝみてさすかにいと
ほそくちひさくまきむすひてなてしこの花につけたりひすましわらはしもいと
なれてきよけなるいまゝいりなりけり女御の御方の大はむ所によりてこれまい
らせ給へといふしもつかへみしりてきたのたいにさふらふわらはなりけりとて
御ふみとりいるたいふの君といふもてまゝいりてひきときてこらむせさす女御
ほゝゑみてうちをかせ給へるを中納言の君といふちかくいてそは　くみけりい
といまめかしき御ふみのけしきにもはへめるかなとゆかしけに思ひたれはさう
のもしはえみしらねはにやあらむもとすゑなくもみゆるかなとて給へりかへり
ことかくゆへゆへしくかゝすはわろしとやおもひおとされんやかてかき給へと
ゆつり給ふもていてゝこそあらねわかき人はものおかしくてみなうちわらひぬ
御かへりこへはおかしきことのすちにのみまつはれてはへめれはきこえさせに
くゝこそせむしかきめきてはいとおしからむとてたゝ御ふみめきてかくちかき
しるしなきおほつかなさはうらめしく

ひたちなるするかのうみのすまの浦になみたちいてよはこさきの松とかき
てよみきこゆれはあなうたてまことに身つからのにもこそいひなせとかたはら
いたけにおほしたれとそれはきかむ人わきまへ侍なむとてをしつゝみていたし
つ御かたみておかしの御くちつきやまつとのたまへるをとていとあまえたるた
きものゝかをかへすかへすたきしめゐ給へりへにといふものいとあからかにか
いつけてかみけつりつくろひ給へるさるかたににきはゝしくあひきやうつきた
り御たいめんのほとさしすくしたることもあらむかし